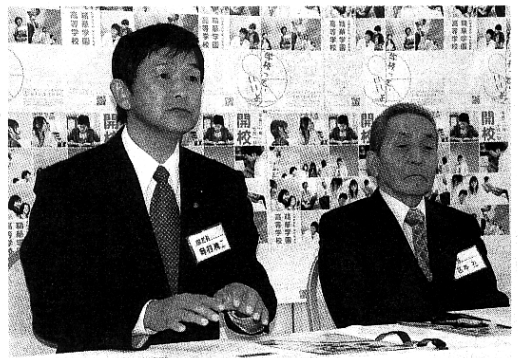


「温かく、甘えのない指導」

広域通信・単位制の高校認可

精華学園 7月1日開校へ



左から、岡村理事長と宮本校長
（左から）宇部全日空ホテルで

今月末から生徒募集

広域通信制・単位制の高校「精華学園」を全国すべての都道府県に設置する学校法人・山県から入学できる高校「精華学園の岡村精二」で、四月九日の前期と理事長（奥）は七月、十一月の後期に分けて、宇部全日空ホテルで、十三月の後期に分けて、三員と一緒に会見し、学校法人の設立申請と高七十四単位以上を取得の設置申請に対して、県から正式な認可が下りたことを報告。「県や地域の医療機関の協力も受けながら、良い学校にしていきたい」と所信を述べた。今月、宇部市から借りて使末から生徒の募集を開始。七月一日の開校を進めている。授業（面接指導）会場となる宇部学習センターは松島町の山口UK学院に置く。学習センターは今後、全国約三十カ所に展開する方針。開校時には大分、年内に東京と関西エリアに設置する。初年度の定員は三百人。三年後は千五百人以上に増やす。

通信制課程は、規定日数の面接指導や単位認定試験、特別活動参加などのスクーリングが義務付けられている。遠方のスクーリング会場に通わなければならないことは経済的な負担になるが、各学習センターでも対応できるように準備を進めている。卒業までの学費は、既存の私立高と同程度になる見通し。岡村理事長は「高校

中途退学者は年々増加しているが、理容や美容、調理師などの国家試験の受験資格も高くなった。一度高校を挫折した生徒にとって、通信制高校は最後のとりこ」と、開学の動機と経緯を説明。手作りヨットで単独太平洋横断を達成した経歴や、ヨット、キャンプ、耐久徒歩などの体験教育に四半世紀にわたって取り組んできた実績を生かし「徹底的に生徒の立場に立ち、温かく、甘えのない指導を貫き、日本の未来を担う有為な青少年に育てたい」と方針を語った。校長には宮本弘さん（元香川高校長）が就任する。（岩村）

宇部日報

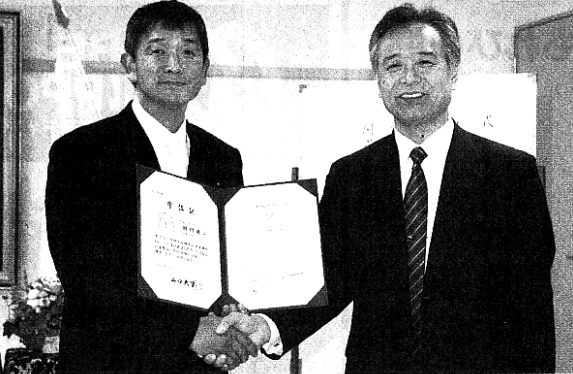
右：不登校や高校中退者を支援するため「精華学園高等学校」を開校
県内の不登校児童生徒は約1800人、高校中退は年間約700人です。しかし近年、理容、美容、調理師などの受験資格は、高校卒業が条件となっており、「最後の砦」との思いから県内初となる広域通信制・単位制の精華学園高等学校（江藤修三校長）を開校しました。子どもたちが夢を実現するための手助けになればと願っています。

下：山口大学大学院より災害対策分野での博士号（工学）を取得
平成11年、台風18号で宇部市の沿岸部が高潮による甚大な被害を受けたのを機に、災害対策について学ぶために、平成12年、山口大学大学院に入学しました。微力ながら「安心・安全を守る」という使命感を持って災害対策に取り組んで参ります。

宇部日報

岡村県議が工学博士に 「戸建てシェルター」の開発と評価 議員と両立、全国でもまれ

山口大学大学院で社会人学生として学んだ県議の岡村精二さん（左）が八日、学位博士（工学）を授与された。被災者ための緊急避難施設の開発を目指して十五年間、議会やNPO活動など多忙な中間を縫っての研究となった。議員活動しながら学位を取得した例は全国的にも極めて異例とみられる。



恩師の三浦房紀工学部長から学位記を受ける岡村さん（左、山口大学学部）

博士論文は「大災害を想定した早期設置型『戸建てシェルター』の開発と評価」。被災直後の避難施設の一つとして、場所を選ばず、素早く設置でき、入居者のプライバシーと最低限の居住性を確保できる戸建てシェルターを提案し、その有効性を立証した。

大学院理工学研究科の門を志したかったのは二〇〇〇年。阪神・淡路大震災（一九九五年）の発生後、避難所で長期にわたる不自由な生活を強いられている被災者を目的に、簡易住宅を早急に

提供する施策はないだろうか」と考えたのが端緒。

宇部市も九九年の台風18号で甚大な被害を受けたことから、専門的な災害対策の知識から身に付けることにした。

二年後の〇二年九月に前期博士（修士）課程を修了し、さらに同年十月から後期博士課程に入学。本来なら後期課程は三年間で修了しなければならぬが、市議が「県議へ転身した中で多忙を極

宇部日報